

新型インフルエンザに関する東京都の対応等について（第 171 報）
（秋冬に向けた医療体制の整備について）

今年5月の新型インフルエンザ国内発生以降、都内でも多くの集団感染が発生し(別紙)、我が国でも新型インフルエンザに感染した方の死亡例が報告されております。

本格的な流行期に入り、今後更なる感染者の増加に備えて、都は、入院患者の増加への対応や、重篤化しやすい妊婦や基礎疾患のある方への適切な医療提供体制の確保のため、以下のとおり対策を実施します。

1 医療体制の確保

- (1) 都内全病院への協力要請
インフルエンザの入院患者を受け入れるための体制確保を要請
- (2) 一般医療機関への周知
外来における早期診断、早期治療の徹底について、東京都医師会を通じ協力依頼
- (3) ハイリスク患者受入体制の確保
 - ① 妊婦、透析患者等ハイリスク患者が重篤化した場合の確実な受け入れ先確保のため、産科、透析機能を有する病院、感染症診療協力医療機関に対して協力を要請
 - ② 妊婦、透析患者等に対し、医療機関等を通じて個別に注意喚起
- (4) 入院医療機関における个人防护具や医療資器材（人工呼吸器等）の備蓄を支援
- (5) 地域における医療体制確保のため、都内10ブロックにおいて協議会を開催

2 サーベイランス体制の強化

- (1) 病原体サーベイランス、入院サーベイランスの強化
- (2) 健康安全研究センターの検査体制の強化

3 医療資器材等の確保

- (1) 抗インフルエンザウイルス薬の追加備蓄
(タミフル、リレンザ各100万人分を追加、合計各300万人分を備蓄)
- (2) 个人防护具等の追加備蓄

4 普及啓発

- (1) 一般都民への感染予防策の周知徹底
- (2) 社会福祉施設向け説明会開催（9月上旬）

* 都民のみなさまへ（裏面）

【問合せ先】

○ インフルエンザ全般に関すること
福祉保健局健康安全部感染症対策課
03-5320-4482

○ サーベイランスに関すること
東京都健康安全研究センター疫学情報室
03-3363-3231

都民のみなさまへ

学校の新学期が始まる9月以降は、さらに感染が拡大するおそれがあります。これから秋・冬の大流行期に向けては、みなさん一人ひとりが感染予防に努めましょう。

- **新型インフルエンザは、都内のすべての一般医療機関で受診できます。**
感染拡大防止のため、以下に注意して受診してください。

【一般の方】

受診の際は医療機関に事前に電話等で連絡し、受診の時間帯、受診方法等について指示を受けてからマスクを着用して受診するようにしてください。(小児科の場合は、事前の電話が不要場合があります。あらかじめかかりつけ医に確認しておきましょう。)

【慢性呼吸器疾患、慢性心疾患、代謝性疾患、腎機能障害、免疫機能不全等の基礎疾患を有する方】

かかりつけの医師に事前に電話等で連絡し、受診方法を確認してから受診しましょう。

【妊娠している方】

かかりつけの産科医師に連絡し、受診する医療機関の紹介を受けましょう。産科医師が診療情報を提供する場合があります。

- **感染予防と拡大防止に努めましょう。**

○ 個人が行う予防対策

- ・ 外から帰ったら手洗いに努める。
- ・ 室内の適度な湿度、換気に努める。
- ・ 規則正しい生活を送り、休養を十分にとる。
- ・ バランスのとれた食事と適切な水分の補給に気をつける。等

○ 「咳エチケット」による感染拡大の防止対策

- ・ せき、くしゃみの症状があるときはマスクをする
- ・ せき、くしゃみをするときは口と鼻をティッシュなどで覆う
- ・ せき、くしゃみをするときは周りの人から顔をそむける

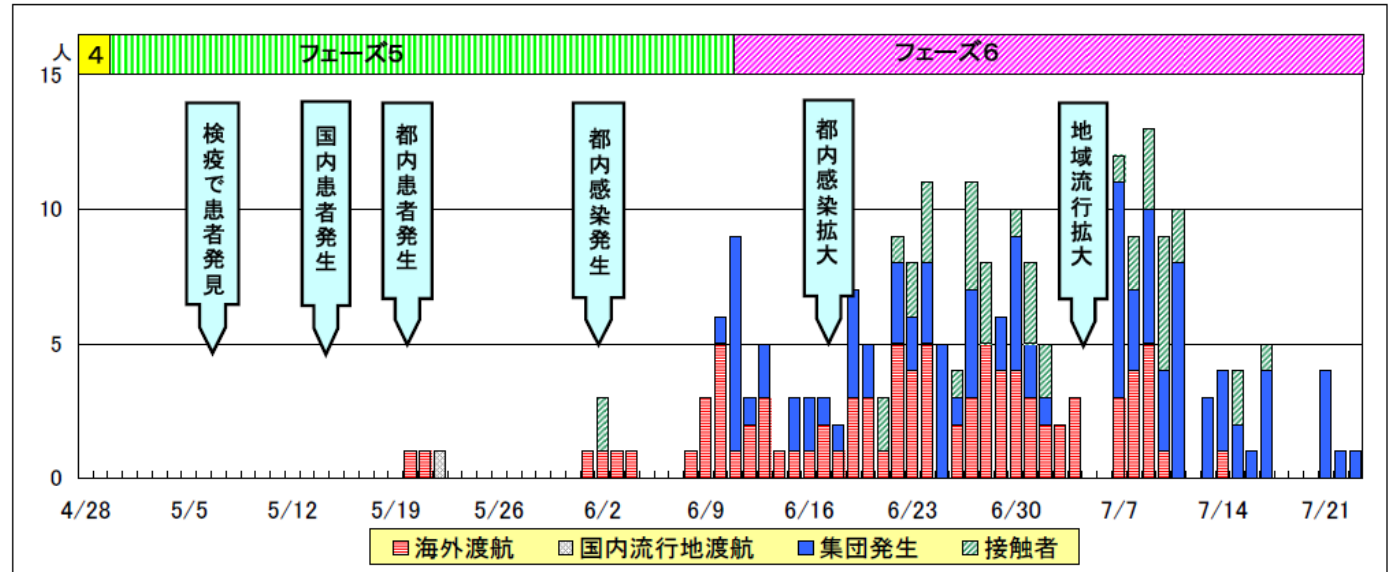


インフルエンザウイルスの
電子顕微鏡による観察像

都内の新型インフルエンザ患者の発生状況

1 全数把握期間（5月20日～7月23日） 229名

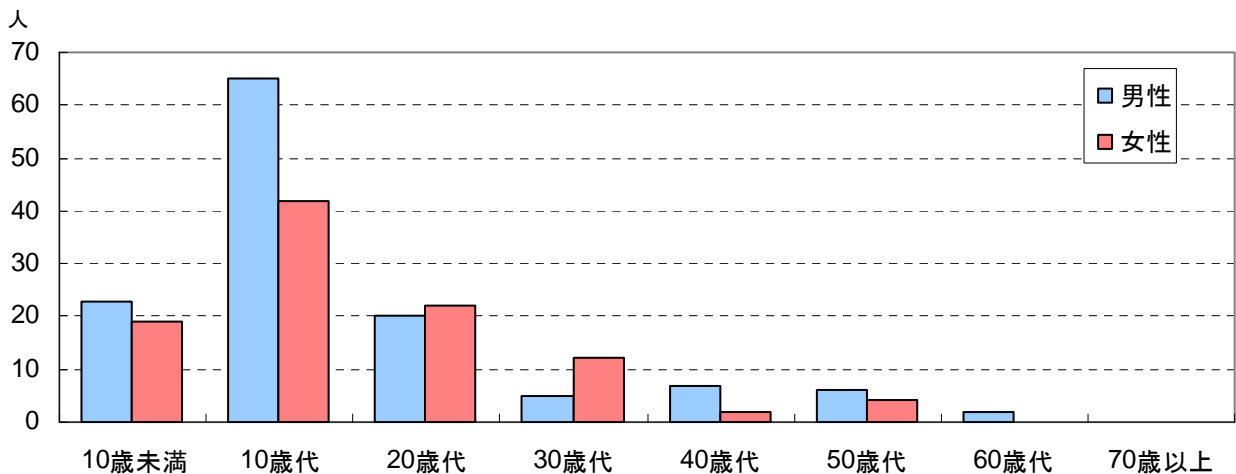
(1) 新型インフルエンザ患者数の推移（患者発生届出日別）



4月28日 WHOがフェーズ4移行を宣言
 5月 9日 成田空港で帰国者の患者確認
 5月16日 神戸市で初の国内患者確認
 5月20日 八王子市で都民の患者確認

6月 2日 都内における接触者からの感染確認
 6月11日 都内における感染が拡大
 (都内学校等でクラスター発生開始)
 7月 6日 地域での感染が拡大
 (小学校等でのクラスター発生拡大)

(2) 年齢階級別確定患者数



10歳代が約47%で最も多く、10歳未満と20歳代が約18%となっています。

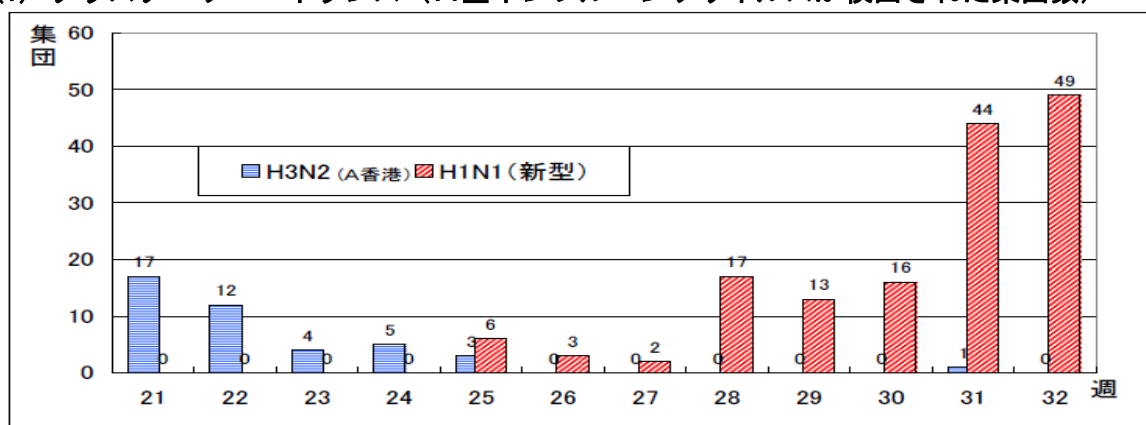
(3) 確定患者の症状

症状	発症率(%)
熱	98.7
咳	72.1
鼻水・鼻づまり	34.1
咽頭痛	45.0
筋肉痛・関節痛	21.0
全身倦怠感	23.6
嘔吐	3.9
下痢	3.9
結膜炎	0.0

ほとんどの患者に発熱が見られ、咳、咽頭痛の症状も多くの方で見られています

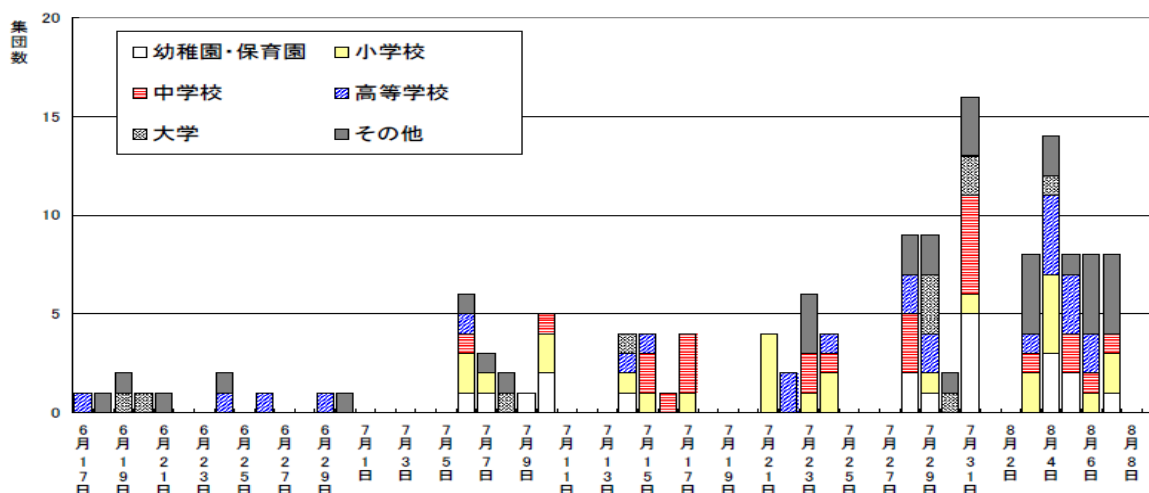
2 サーベイランスの状況

(1) クラスタースーベイランス（A型インフルエンザウイルスが検出された集団数）



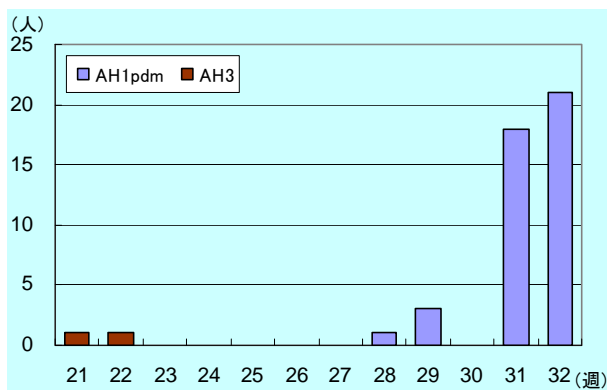
4月29日に最初の検体が搬入され、当初は、AH3(香港型)が主に検出されました。5月20日(21週)に初めてAH1pdm(新型)が検出され、6月中旬(25週)以降、AH1pdmが主に検出されるようになりました。

(2) クラスタースーベイランスにおけるA型インフルエンザウイルスが検出された集団数

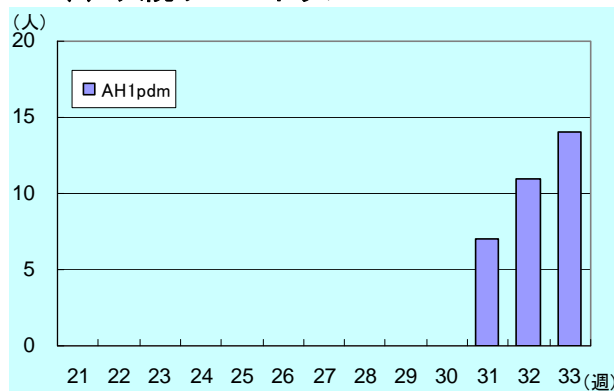


7月6日以降、幼稚園・保育園及び小学校等でのクラスターが増加し、身近な地域で感染が拡大していることが明らかとなりました。

(3) 病原体サーベイランス

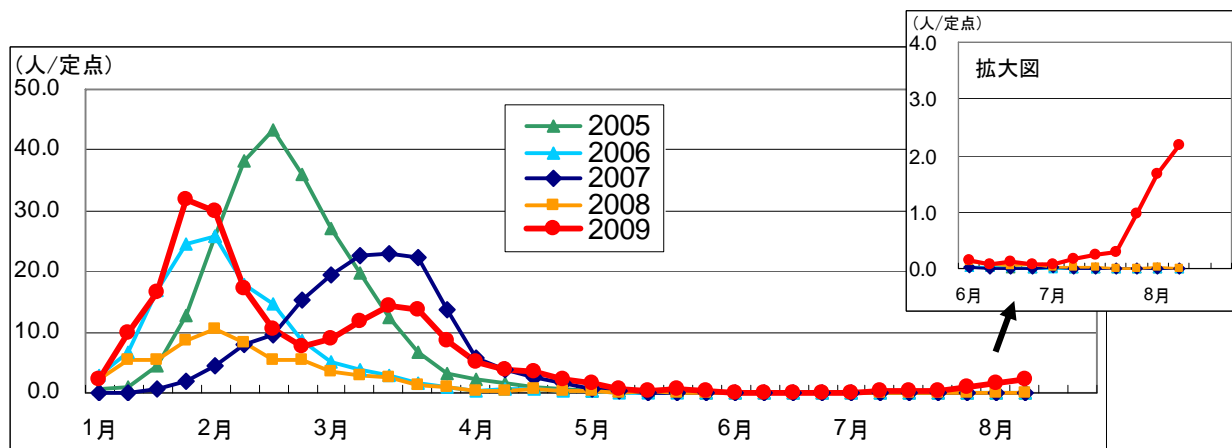


(4) 入院サーベイランス



インフルエンザ病原体定点からの検査検体では5月(21週・22週)に2人からAH3(香港型)が、7月中旬(28週)以降、43人からAH1pdm(新型)が検出されています。また、入院サーベイランスからは32人からAH1pdm(新型)が検出されています。

(5) 定点サーベイランス (定点医療機関(290か所からのインフルエンザ患者報告数))



インフルエンザ患者報告数は4月以降、減少傾向にありましたが、7月上旬(第28週)より再度、増加に転じています。感染症法施行(1999年)以来、最も報告数が多く注意が必要です。

3 集団感染事例経過表

患者番号	5月29日	5月30日	5月31日	6月1日	6月2日	6月3日	6月4日
0	帰国	パーティーに参加	発熱(37.4℃)	診断(A+)			
1					発熱(37.3℃) 診断(A-)		
2				発熱(37.5℃)	診断(A-)		
3				咳	発熱(37.5℃) 診断(A-)		
4						発熱(37.9℃) 診断(A+)	
5						発熱(38.0℃) 診断(A-)	
6						発熱(37.7℃) 診断(A-)	
7					咽頭痛	発熱(37.0℃) 診断(A-)	
8						発熱(37.5℃)	診断(A+)
9						発熱(37.0℃)	診断(A+)

- 1 患者0が5月30日のパーティーに参加
- 2 患者0から1~9(海外渡航歴なし)に感染
- 3 患者0の発症は5月31日。パーティーは発症前日。発症前日から感染性がある。
- 4 発症当日は迅速検査A陰性であったが、翌日にPCR検査が陽性となった。
- 5 発症当日の発熱は必ずしも38℃以上ではない。